

いしづち

愛媛労災病院広報紙第7巻第1号

(通巻第47号)

2009年1月5日発行

発行人: 病院長 篠崎文彦

【愛媛労災病院の理念】

当院は働く人々のために、
そして地域の人々のために
信頼される医療を目指します



新年のごあいさつ

愛媛労災病院院長・篠崎 文彦

謹んで新年のお慶びを申し上げます。すがすがしい新春を迎え今年が素晴らしい年になるよう願っています。

昨年は度重なる年金問題、食品の産地偽装、汚染米など生活に身近な問題が度々報道され安心して生活できる状況ではなかったのが残念です。医療では、赤字病院の増加、また幾つかの自治体病院の閉鎖などわれわれ病院で働くものにとっては他人事ではない問題だと痛感しています。当院も、医師不足はなかなか解消できず、患者様に満足のいく医療が提供できないこともあり、申し訳なく思っております。今年は何とか1人でも常勤の小児科医、眼科医が採用でき、さらには透析ができるよう努力する所存です。

一方政治に目を向ければ、衆参与野党逆転現象で、法案が思うように通過せず、国会の解散を含め混迷するばかりであります。さらに、アメリカのサブプライムローン問題に端を発し、円高、株価の低迷、車や電機の

大手企業の業績低下それに伴って下請けや、派遣社員が解雇され、日々の生活にも困窮する人達がどんどん増えているなど、いい話は1つありません。国の税収不足も深刻で、今年はいまだかつてない国債を発行して切り抜けようとしています。小泉政権以来問題になっていた社会保障費を、毎年2,200億円ずつ抑制してゆくと国の方針に対し、日本医師会をはじめ多くの団体が反対声明を出し、その行方が注目されています。国の財政が逼迫しているからといって医療や年金問題まで手を出すことは間違っています。

このような厳しい時代でも、われわれ医療に携わる者は使命感を持って、病んでいる人に、安心して、なおかつ安全で心休まる医療を提供しようと日夜努力しております。今年もどうぞ愛媛労災病院をよろしく願います。

転任のごあいさつ

整形外科部長・國司 善彦

平成20年9月1日より愛媛労災病院整形外科に赴任してきました國司善彦です。どうぞよろしくお願いたします。早いもので愛媛にまいりまして4カ月が過ぎようとしています。ここ新居浜は初めての勤務地で不安もありましたが、気候は温暖で北は瀬戸内海に面し、南は四国連邦を望む環境の良いところで、現在ではほっと一息ついている次第です。私は、S63年に山口大学整形外科に入局して以来大学を始めとした多くの施設で研修を行なってまいりました。前任の山口労災病院整形外科では約10年間にわたり脊椎外科を専門に診療を行い、頸髄症、腰部脊椎管狭窄症、椎間板ヘルニアやなどの変性疾患や脊髄損傷、脊椎外傷などの脊椎疾患の手術を含めた治療を行ってまいりました。また頸髄症や脊髄損傷後に発生する痙縮に対するバクロフェンの髄腔内療法は治験の段階から参加させていただき、良好な臨床成績を確認することができました。

さて、現在、高齢人口の増加に伴い、整形外科疾患は増えており、それに伴う手術も多くなってきてい

ます。一方で、医療の高度化はめざましく、整形外科領域においても、手の外科、外傷外科、関節外科、脊椎外科等に細分化され、それぞれに専門的な知識や技術が求められるようになってきました。当科では木戸部長をはじめとする5人の整形外科医師がそれぞれの専門性を保ちながら、同一丸となって整形疾患に対応しており、患者様に安心して治療を受けていただけることを心がけて診療にあたっております。

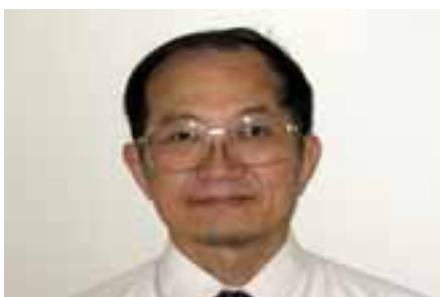


当院は急性期型病院として、地域医療支援を目指す病院として地域社会に貢献しなければなりません。その点においてはいつもご紹介いただいている開業医の先生方には大変感謝いたしております。この場を借りて厚くお礼申し上げます。これからも微力ではございますが、地域医療ネットワークの中で安心、安全の医療サービス提供ができますよう努力する所存であります。どうぞご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

呼吸器内科部長・森公介

① 役職・担当:
アスベスト疾患
センター・セン
ター長、呼吸器
内科部長

② 出身大学: 熊
本大学昭和52
年卒



③ 職歴: 国家公務員共済高松病院、住友別子病院、公立周桑病院ほか

④ 資格・認定等: 日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本アレルギー学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医

⑤ 本院の呼吸器内科は、広く呼吸器の病気全般の診療を行なっています。その中でも特に特徴的なことを述べてみたいと思います。

1. 労災に関連した呼吸器疾患の診療

一般の総合病院で扱う呼吸器の病気はもちろんです。それに加えて労災病院という病院の使命を果たすべく、塵肺や事故での頸部損傷による呼吸不全、職業に関連した喘息、アレルギー性肺疾患の対応にも力を入れています。

2. 睡眠時無呼吸症の診断と治療、専門医の存在

いびきが突然止まり窒息することで有名な睡眠時無呼吸症候群という病気があります。本院にはずっと以前より睡眠障害についての高度な専門医がおられます。精神科の稲見先生は、日本睡眠学会の全国評議員で四国では唯一の存在です。睡眠時無呼吸症候群は呼吸器内科(随時)または精神科(要予約)で対応しています。ご依頼により職場、企業での講演も行います。

3. アスベスト疾患センターの新設

この数年マスコミでの報道でお分かりのように石綿による肺の病気が急増し、これからはますます増加します。本院では各市町村より多くのかたが定期検診にきておられ、これらのかたを含めて集中的に対応するため愛媛県の公的病院のなかで唯一、アスベスト疾患センターを設立致しました。特に石綿に関連した胸膜中皮腫、肺癌は 全国の労災病院が連携して膨大なデータを共有し、少しでも患者さんのお役にたてるように心がけています。詳細はぜひ本院のホームページをご覧ください。

最後に: 愛媛労災病院呼吸器内科は以上のような特徴があり、結核を除く呼吸器疾患全般に幅広く対応しています。皆様のお役に立つことができましたら、幸いに存じます。

産婦人科のご紹介

副院長・宮内 文久

産婦人科は平成1年4月に診療を開始しました。その時に赴任した3人の医師は交代することなく労災病院で20年にわたって診療に従事しています。この20年間の大きな変化は(1)平成1年5月25日に最初の赤ちゃんが産まれました。それまでに何度も予行練習を繰り返していましたが、最初の妊婦さんに陣痛が始まり入院となっても、徐々に児頭が下降し分娩が進行してもさほどの緊張はありませんでしたが、いざ赤ちゃんが産まれると病棟のスタッフ全員が予期しないほどの感激を共有しました。(2)平成18年12月小児科医が香川大学に引き上げとなったことです。当座は暗澹とした気分になりましたが、その後も新生児室は活動を続け、赤ちゃんの体重が1,800gより大きければ何とか保育できるまでになっています。



それまでのオジサン3人組(宮内文久・昭和48年卒、大塚恭一・昭和49年卒、南條和也・昭和57年卒)に、平成20年4月からは高橋慶子医師を加えて4人で働いています。4人のチームワークを基礎に月約20件の開腹手術を行い、月約20件の分娩に対応しています。月曜から金曜まで8時30分から午後5時まで外来を開けています。通常の外来では急患を断ることもなく全ての患者を受け入れています。さらに、月曜の午後に宮内医師は思春期・更年期外来を、高橋医師は女性総合外来を担当しています。また、土曜には南條医師が夫婦外来を担当しています。

手術は卵巣腫瘍から子宮頸癌まで当院で行っています。開腹手術はなるべく小さな手術創で行

うことに努めています。卵巣腫瘍でしたら長さ約3cmで手術を行うことが可能です。最近では子宮下垂、子宮脱の患者さんが増え、開腹することなく経膈式で行う手術が増加しています。子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌に対しては進行期分類に応じて手術を行っています。また、放射線療法や化学療法も積極的に行い、生存率の向上に努めています。強力な化学療法を行うために、月に数件の血小板輸血を行わざるを得ないのは心苦しいことです。

不妊症は南條医師の献身的な努力によりトップクラスの診療レベルを維持しています。人工授精はもとより試験管ベビー(体外受精胚移植)、顕微授精も行っています。胎児の出生前診断も羊水穿刺によって得た胎児のリンパ球を培養して行っています。

妊娠高血圧症や前置胎盤もすべて当院のみで対応しています。最近では高橋医師の努力により自己血輸血を行うことにより、前置胎盤の帝王切開術がより安全に行えるようになりました。また、死亡率が約70%とされている羊水塞栓症を2例経験しましたが、ICUの西山医師の協力により2例とも救命することができました。小児科の常勤医を迎えることができれば、ますます地域への貢献ができると考えていますが、この問題を乗り越えることは難しそうです。

現在、産婦人科医4名で1日24時間1年365日、通常の診療活動から急患、夜間の緊急帝王切開術まで、一人の患者さんもお断りすることなく対応していますが、これからももっともっと努力して行くつもりです。北4病棟では助産師9名、看護師13名が患者さんのお世話をしています。12室ある病室のうち10室を改装しより快適な療養環境を提供しています。是非労災病院にお出でください、ご自身の目でお確かめください。

子供たちとサツマイモほりをしました。

敷地内の官舎にいる子供たちと11月16日の午後サツマイモほりをしました。官舎横にある小さな公園の片隅に二畝ほどの畑をつくり、梅雨まえにサツマイモのつるを約30本ほどを植えました。今年は夏にもほどほどの雨がありがたくも良く



育って青々としていましたのできっと沢山のイモが収穫できると期待していました。期待どおり大小4~50個のイモが収穫でき子供たちも大喜びでした。

(篠崎 文彦)



愛媛労災病院地域医療連携講演会のご案内

新春の頃、先生方にはますますご健勝のことと存じます。さて、このたび、山口大学教授・松崎益徳先生をお迎えし、下記の要領で講演会を開催させていただき運びとなりました。ご多忙の折とは存じますが、何卒ご出席賜りますようご案内申し上げます。

日時:平成21年2月27日(金)
場所:リーガロイヤルホテル新居浜

19:00～一般演題
愛媛労災病院整形外科
19:20～特別講演
「慢性心不全の病態と新しい治療戦略」

山口大学大学院医学系研究科器官病態内科学
松崎 益徳 先生

* 講演会終了後、意見交換会を予定しております。



野球部から

歯科口腔外科部長 千葉 晃義

先日星野仙一の講演を聞く機会がありました。「金メダルしかいらぬ」と豪語して臨んだ北京オリンピックでの惨敗のこと、WBCの監督人事問題が中心でした。

私的には、ことごとくりリーフに失敗している岩瀬を、何度も使った理由、ダルビッシュを使わなかった理由、GG佐藤の落球について聞いたかったのですが、そのことには触れず、メダルを逃した後の、マスコミを通じたバッティングについて話をしていました。日本人は昔に比べて意地が悪く、弱いものいじめをするようになったと、逆切れのような話をしていました。サッカーでは代表が負けるとバッティングは当たり前です。一時期WBCも星野監督と言うような話が出ていましたが、サッカーでは、大会で惨敗した監督が、次の大会で指揮をとることはあまりないため、違和感がありました。

代表に、年俵が何億円ももらっている選手が、ごろごろいる日本に比べ、最高年俵でも数千万の韓国が、日本に2回も勝って、優勝したのだから、少々のバッティングを受けるのは当たり前のように思います。

上野の熱投で、ソフトボールが金メダルを取り、せっかく気持ちよくなったのに、野球はメダルも取れずがっかりです。やはり勝負事は勝たないといけません!

WBCでは原監督に、期待すると言うよりも、イチロー、愛媛出身岩村の、なにくそ魂(漢字が分かりませんか?)に期待したいと思います。

ところで、今年も医師会リーグが行われました。昨年までの絶対エース滝田が移動で去った後、大前と千葉2人のエースで穴を埋め、また八木先生の活躍もあり、結果は6勝2敗で十全病院と並び、仲良く2チーム優勝です。こちらは病診連携の一環として仲良く楽しく試合をしています。思うようには走れなかったり、GG佐藤のような落球は、ほぼ毎試合あったりして、まさに草野球ですが、楽しいなかにも真剣にをモットーに野球しています。

来シーズンも医師会、歯科医師会、十全、住友の皆さん楽しくやりましょう。

編集後記

直下型大不況に襲われたようです。ごく最近まで好況であったといわれますが、こと医療界に関して、そのようなことはまったく感じられず、また恩恵に浴したとも思えません。第一次石油ショックの頃を思い出すと、医療界も不況の波を被ったように思います。ただ巷に比べ影響は軽微であったと記憶しています。好

況にも不況にも鈍感であることは、「派遣切り」などというおぞましい事態が起こっている今日では、むしろ幸せでしょう。

ことは丑年です。牛歩、牛車など、いかにものろくて鈍い印象ですが、力が強いとか反芻するなど、頼りがいも感じます。今年はチントラ牛歩戦術で行けたら、と願ってはいるものの叶わぬ夢でしょう。(N.T.)

広報紙編集メンバー: 病院長(篠崎文彦), 副院長(友澤尚文), 医局(稲見康司, 福井啓二), 看護部(伊藤千鶴, 高橋美保, 泉敦子, 山根千春), 総務課(松本伸二, 田中満), 医事課(石井裕美子, 塩見誠理), 薬剤部(橋田麻衣), 放射線科(正岡憲治), 検査科(伊藤英司), リハ科(小川進太郎), 栄養管理部(清水亮)